

## 第4回 ヴィジュアル・シンキング・ストラテジー 対話型鑑賞ファシリテーター勉強会

日時： 2012年 2月6日(月) 18:30 ~ 22:30

### 実施目的：

- 勉強会を通しヴィジュアル・シンキング・ストラテジー (Visual Thinking Strategies 以下VTS) の手法を用いた対話型鑑賞のファシリテーターの経験値を高める。
- 豊かで深い会話に繋がる作品、シークエンスの妥当性を検討する。
- 会場や機材(プロジェクター、スクリーン、PC)に捉われない作品鑑賞の環境や方法を検討する。
- 懇親を深めながら、今後の勉強会や実践の場の情報交換を行う。

### 実施内容：

- ファシリテーターを事前に決め、3作品のシークエンスを作りVTSを行う。
- 時間は1作品15分程度×3作品で計45分程度。
- 実施後、参加メンバーとディスカッション(15分程度)を行う。
- VTSの実施環境について検証：A4程度の紙ベースで鑑賞し、機材(プロジェクター、スクリーン、PC)が無い環境と比較し、メリット・デメリットを検討する。

参加者： 5名

### <ファシリテーター >

#### 作品1

「クラゲの夢」

石田徹也

1997年

板・アクリル

103×145.6cm

#### 作品2

「ある時空間」

吉仲太造

1980年

油彩・カンバス

193.9×130.3cm

#### 作品3

「水平線の記憶」

中津川浩章

2011年

綿布 アクリル

194×324cm

### VTS 対象設定

美術作品の鑑賞に慣れている層

### テーマ

「死」を重ねあわせている作品 (露骨な「死」ではなく、トーンを匂わせている作品)

### シークエンスの意図

- 1 作品目:参加者同士が話したくなる要素が多くあり、ウォーミングアップに適している。
- 2 作品目:会話のポイントとなる要素を絞りつつ、ポエティックで語りたくなる作品である。
- 3 作品目:1と2の作品を踏まえ、大作を通し様々な部分をみながら、全体を掴んで行く事ができる作品。

### VTS ファシリテーター側の所感

参加者からの発言の取りこぼしもあったものの、パラフレーズをきちんと正確に拾った部分と敢えて省いた部分とメリハリをつけた。パラフレーズを省いた部分は、対話中の共通理解でカバーしつつ、挙がった話題のポイントを整理しながら進めることができた。「死」という深いテーマを設定したが、参加者側が読み解く楽しさを感じられるよう、もう少しシークエンスを分かりやすくした内容でも良かった。

### 参加者からの意見

- シークエンスの設定よりも個々の作品の持つ魅力に頼る部分もあったが、設定自体あまりぼやかしすぎず、もう少し分かりやすいものの方が、会話も弾みやすい。
- 作品に人物が描かれているかによって、会話の広がりや違いが感じられた。
- 色んな意味に取れる作品なので、豊かで深い会話ができ、意外な発言にもお互い面白がって聞ける居心地のよさを感じた。

< ファシリテーター >

#### 作品1

「聖女バルバラ」

ヤン・ファン・エイク

1437年

板に油彩

30x18.5cm

アントワープ王立美術館所蔵

#### 作品2

ノルウェー野生トナカイパビリオン \* 建築写真

(Norwegian-wild reindeer-pavilion)

スノヘッタ

2011年(竣工)

ノルウェー

#### 作品3

「カウンター・コンポジション」

(Contra-Construction Project, Axonometric)

テオ・ファン・ドゥースブルグ

1923年

57.2x57.2cm

ニューヨーク近代美術館

### VTS 対象設定

対話型鑑賞のファシリテーターを目指しているメンバー

## テーマ

- 建築物を使い、空間を感じられる作品
- 背景に建築物があり、物語として読み解く事ができる作品

## シークエンスの意図

- 1 作品目: 物語性のある絵画作品
- 2 作品目: 写真
- 3 作品目: 抽象画

## VTS ファシリテーター側の所感

参加者の反応を楽しむ余裕を持って進める事が難しかったが、参加者の意見をきちんと拾い、発言の意図を共有することを通して、鑑賞者に委ねることも大切と感じた。

## 参加者からの意見

- パラフレーズは、ファシリテーターと発言者との重要なコミュニケーション。  
主役である参加者に興味を持ち、発言や、意図する内容に耳を傾けることが大切。
- パラフレーズは、概念など抽象化しすぎると覚めた雰囲気になってしまうため、会話そのものや、皆が理解しやすい共通の表現を出来るだけ取り入れるよう工夫すると良い。
- 中立な立場で、公平にパラフレーズしつつも、どんでん返しが起こるような誘導が出来るよう、言葉の使い方を工夫していきたい。

実施環境について検証(印刷物を配布した場合の鑑賞について)

### メリット

- 作品が手元にあることで、作品の隅々までよく鑑賞することができた。
- 作品と鑑賞者の間が無いことで、鑑賞に集中でき作品の持つ世界に入りやすい。
- ファシリテーターも参加者もお互いの顔がよく見え、集中力を持続しながら対話型鑑賞をすることができた。

### デメリット

- 印刷時の不具合(色あい、明るさ、線、陰など)が入ってしまう。  
印刷に耐えうる画像の入手可否によって、プロジェクターで投影した時の印象が大きく変わる。
- 作品全体を俯瞰する事が難しい。一定の距離は必要である。
- 鑑賞者と作品の適正な距離が図りづらい。

### その他

- 場所が飲食店などの場合、作品汚れやすい。そのため、薄いクリアファイルなどに入れると使用しやすい。
- 今回作品鑑賞時はバインダーを使用。パラフレーズの際は指し示しながら共有でき便利だった。
- 教室など区切られたスペースではない場合、BGMや周囲の音が気になってしまう。
- テーブルの広さや形(四角、丸)、参加者同士の遠近に配慮する必要がある。

